

所管事務調査

産業建設

所管事務調査

- 9/24 気温の上昇による農業への被害及び対策状況について
- 海水温の上昇による水産業への被害及び対策状況について
- 10/2 イシカゲガイ養殖作業に係る省力化機械について



省力化機械を開発した村上祐哉氏

産業建設常任委員会は9月24日、「気温の上昇による農業への被害及び対策状況について」、「海水温の上昇による水産業への被害及び対策状況について」の2件を市役所内で調査を行いました。

熊谷重昭地域振興部長、石川浩水産課長、大和田智広農林課長補佐から、それぞれ説明を受け、質疑を行いました。

農作物の被害状況は、本年度の高温下でも水稲は土づくりや水管理、大豆は高温強耐性の品種に切り替える等の対策により影響は見られず、ピーマン・ミニトマト・きゅうり・りんご等の主な品種も生育状況に影響は見られないとのことでした。

海水温は、広田湾内の環境調査により、平年差で4度を超える月があるなど、水温が高い状況です。被害状況は、令和5

年度に比べ、イシカゲガイ5割以下、ホタテガイ5割、ワカメ7割と軒並み減産。漁業経営悪化の対策には、減産金額を補うための共済加入を進め収入の安定を図るため、掛け金の補助を行っています。貝毒による出荷規制は、本年度はないとのことでした。

今後、気温や海水温の上昇による本市産業への影響について、引き続き調査することとしました。

また、本委員会は10月2日、「イシカゲガイ養殖作業に係る省力化機械について」と題し、気仙町要谷漁港で調査を行いました。

広田町の村上祐哉さん（アートスタジオ）が開発した「rotor mark2」は、イシカゲガイ養殖に使う容器の保護シートを簡単に洗浄できる機械です。通常は



イシカゲガイ養殖の省力化機械

2〜3人の手洗いで1日100枚の作業量が、機械ならひとり30分で100枚をこなせます。

今回の調査を通じて、今後は漁業の省力化機械普及に向けた政策提言を行うこととしました。

委員長 俊純 郎 卓一
副委員長 大伊 菅 小 及
委員 坂勢 秀一 林 川 修
委員 大伊 菅 小 及

教育民生

所管事務調査

- 9/6 子ども基本条例素案作成
- 9/24 請願審査



委員会発議に向けた条例素案を検討

この条例素案は、「すべてのこどもを市全体で応援するまち」を作ること

を目的として検討しています。

これまで、保育所（園）の子どもや学校の児童・生徒の子育て環境に関する特徴や課題を、学校教育課と子ども未来課から

教育民生常任委員会は9月6日、子ども基本条例の素案作成の協議を行いました。



請願者から趣旨説明を受ける

聞き取るなど、調査を行ってきました。

今回は、その調査内容等を参考として、本市の子育て政策において重視すべき理念を委員間で協議し、条例案の骨子となる基本的な趣旨・目的・基本原則を明確にする前文案の検討を行いました。今後は具体的な条文を検討していく予定です。

請願審査

教育民生常任委員会に付託された「現行の健康保険証を残すことを求めるための意見書の提出について」を9月24日審査しました。

請願の趣旨は、現行の保険証を廃止し、マイナ保険証に切り替えていく政府方針に対し、受診時のトラブルや利用者の不安等の理由から、現行の保険証の維持を求めるものです。

審査ではまず、請願者からの趣旨説明と紹介議員からの補足説明を受けました。その後、市担当課からも状況説明を受け、質疑を行いました。

委員からは、高齢者の不安の声が挙げられていることから、国の方針が定まるまでは現行保険証を維持するべきとの意見。一方でマイナンバーカードを作成しない人に対して、市は令和7年7月に職権で資格確認書を交付・郵送予定であり、従来の保険証と変わらず利用できるため、保険証の維持は必要ないとの意見が出されました。

結果は、起立採決により、本委員会は請願を不採択することに決しました。

委員長 義子 麻紀 喜彦
副委員長 佐々木 良広 利明
委員 佐々木 野田 藤 伊
委員 大坪 菅 福 伊